

温泉分析書 別表 山中温泉(8号源泉)

No.M76107

源泉名 山中温泉(8号源泉)

源泉所在地 石川県江沼郡山中町こうろぎ町イ40-1

温泉分析申請者 【住所】石川県江沼郡山中町湯の出町タ33番地

【氏名】山中町長 田中 寛

泉質 カルシウム・ナトリウム-硫酸塩泉(低張性弱アルカリ性低温泉)

・禁忌症及び適応症

温泉の医治効用は、その温度その他の物理的因子、化学的成分、温泉地の地勢、気候、利用者の生活状態の変化その他諸般の総合作用に対する生体反応によるもので、温泉の成分のみによって各温泉の効用を確定することは困難であるが、この温泉の浴用と飲用と禁忌症及び適応症は、おおむね次のとおりである。

(1) 浴用の禁忌症

急性疾患（特に熱のある場合）、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中（特に初期と末期）

(2) 飲用の禁忌症

下痢の時

(3) 浴用の適用症

神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進、きりきず、やけど、慢性皮膚病、動脈硬化症

(4) 飲用の適応症

慢性便秘、慢性胆嚢炎、胆石症、肥満症、糖尿症、痛風

2. 浴用または飲用上の注意

温泉には老化現象が認められ、地中からゆう出した直後の新鮮な温泉が最も効用があるといわれているが、それぞれの泉質に適する用い方をしなければ疾病に不利に働く場合がある浴用または使用上の注意事項はおおむね次によることとし、特に飲用には新鮮な温泉を用いるとともに源泉及び飲泉施設について十分な公衆衛生上の配慮を行うこと。

(1) 浴用上の注意事項

ア．温泉医療を始める場合には、最初の数日の入浴回数を一日あたり一回程度とすること。その後は一日当たり2回ないし3回までとすること。

イ．温泉療養のための必要期間は、おおむね2ないし3週間を適当とすること。

ウ．温泉療養開始後おおむね3日ないし1週間前後に湯あたり（湯さわり又は浴湯反応）があらわれることがある。「湯あたり」の間は、入浴回数を減じ又は入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。

エ．以上のほか入浴には次の諸点について注意すること。

(ア) 入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分程度とし、慣れるにしたがって延長してもよい。

(イ) 入浴中は、運動浴の場合は別として一般には安静を守る。

(ウ) 入浴後は身体に付着した温泉成分を水で洗い流さない（湯ただれを起こしやすい人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分を拭き取るのがよい）。

(エ) 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。

(オ) 次の疾患については原則として高温浴（42度以上）を禁忌とする。

高度の動脈硬化症、高血圧症、心臓病

(カ) 熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意する。

(キ) 食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。

(ク) 飲酒しての入浴は特に注意する。

(2) 飲用上の注意事項

ア．飲泉療養に際しては、温泉について専門知識を有する医師の指導を受けることが望ましいこと。

イ．温泉飲用の一回の量は100mlないし200ml程度とし、その1日の量はおおむね200mlないしは1,000mlまでとすること。

ウ．強塩泉、酸性泉、含アルミニウム泉及び含鉄泉はその泉質と濃度によって減量し、または希釈して飲用すること。

エ．以上のほか、飲用については次の諸点について注意すること。

(ア) 一般には食前30分ないし1時間がよい。

(イ) 含鉄泉、放射能泉及びヒ素又はヨウ素を含有する温泉は食後飲用する。

含鉄泉飲用の直後には茶、コーヒーなどを飲まない。

(ウ) 夕食後から就寝前の飲用はなるべく避けることが望ましい。

・禁忌症及び適応症

温泉の医治効用は、その温度その他の物理的因子、化学的成分、温泉地の地勢、気候、利用者の生活状態の変化その他諸般の総合作用に対する生体反応によるもので、温泉の成分のみによって各温泉の効用を確定することは困難であるが、この温泉の浴用と飲用と禁忌症及び適応症は、おおむね次のとおりである。

(1) 浴用の禁忌症

急性疾患（特に熱のある場合）、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中（特に初期と末期）

(2) 飲用の禁忌症

下痢の時

(3) 浴用の適用症

神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進、きりきず、やけど、慢性皮膚病、動脈硬化症

(4) 飲用の適応症

慢性便秘、慢性胆嚢炎、胆石症、肥満症、糖尿症、痛風

2. 浴用または飲用上の注意

温泉には老化現象が認められ、地中からゆう出した直後の新鮮な温泉が最も効用があるといわれているが、それぞれの泉質に適する用い方をしなければ疾病に不利に働く場合がある浴用または使用上の注意事項はおおむね次によることとし、特に飲用には新鮮な温泉を用いるとともに源泉及び飲泉施設について十分な公衆衛生上の配慮を行うこと。

(1) 浴用上の注意事項

ア．温泉医療を始める場合には、最初の数日の入浴回数を一日あたり一回程度とすること。その後は一日当たり2回ないし3回までとすること。

- イ．温泉療養のための必要期間は、おおむね 2 ないし 3 週間を相当とすること。
- ウ．温泉療養開始後おおむね 3 日ないし 1 週間前後に湯あたり（湯さわり又は浴湯反応）があらわれることがある。「湯あたり」の間は、入浴回数を減じ又は入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。
- エ．以上のほか入浴には次の諸点について注意すること。

- (ア) 入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めは 3 分ないし 10 分程度とし、慣れるにしたがって延長してもよい。
- (イ) 入浴中は、運動浴の場合は別として一般には安静を守る。
- (ウ) 入浴後は身体に付着した温泉成分を水で洗い流さない（湯ただれを起こししやすい人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分を拭き取るのがよい）。
- (エ) 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。
- (オ) 次の疾患については原則として高温浴（42 度以上）を禁忌とする。
高度の動脈硬化症、高血圧症、心臓病
- (カ) 熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意する。
- (キ) 食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。
- (ク) 飲酒しての入浴は特に注意する。

(2) 飲用上の注意事項

- ア．飲泉療養に際しては、温泉について専門知識を有する医師の指導を受けることが望ましいこと。
- イ．温泉飲用の一回の量は 100ml ないし 200ml 程度とし、その 1 日の量はおおむね 200ml ないしは 1,000ml までとすること。
- ウ．強塩泉、酸性泉、含アルミニウム泉及び含鉄泉はその泉質と濃度によって減量し、または希釈して飲用すること。
- エ．以上のほか、飲用については次の諸点について注意すること。

- (ア) 一般には食前 30 分ないし 1 時間がよい。
- (イ) 含鉄泉、放射能泉及びヒ素又はヨウ素を含有する温泉は食後飲用する。含鉄泉飲用の直後には茶、コーヒーなどを飲まない。
- (ウ) 夕食後から就寝前の飲用はなるべく避けることが望ましい。

温泉分析表

No.M70107

1. 申請者 【住所】石川県江沼郡山中町湯の出町タ33番地
 【氏名】山中町長 田中 寛
 2. 源泉名及び湧出地 : 山中温泉 (8号源泉)
 石川県江沼郡山中町こおろぎ町イ40-1

3. 湧出地における調査及び試験成績

- (1) 調査及び試験者 : (財)北陸保険衛生研究所 河合勝二
 (2) 調査及び試験年月日 : 平成11年10月12日
 (3) 泉温 : 33.0度 (気温: 26.7度)
 (4) 湧出量 : 136.7l/min (動力)
 (5) 知覚試験 : 無色、透明、弱硫化水素臭、微苦味
 (6) pH値 : 8.1 (ガラス電極法)
 (7) 電気伝導度 : 1.73mS/cm (25度)

4. 試験室における試験成績

- (1) 試験者 : (財)北陸保険衛生研究所 松本英夫
 (2) 分析終了年月日 : 平成11年11月9日
 (3) 知覚試験 : 無色、透明、弱硫化水素臭、微苦味
 (4) 密度 : 0.9996 (20度)
 (5) pH値 : 7.90 (ガラス電極法)
 (6) 蒸発残留物 : 1.504g/kg (130度)
 (7) 電気伝導度 : 1.72mS/cm (25度)

5. 試料1kgの成分、分量及び組成

(1) 陽イオン

成分	mg	mval	mval%
リチウムイオン (Li+)	<0.1	0.00	0.00
ナトリウムイオン (Na+)	126.7	5.51	27.21
カリウムイオン (K+)	3.3	0.08	0.40
アンモニウムイオン (NH ₄ ⁺)	<0.1	0.00	0.00
マグネシウムイオン (Mg ²⁺)	12.0	0.00	4.89
カルシウムイオン (Ca ²⁺)	271.7	13.56	66.95
ストロンチウムイオン (Sr ²⁺)	3.7	0.08	0.39
バリウムイオン (Ba ²⁺)	<0.1	0.00	0.00
アルミニウムイオン (Al ³⁺)	0.3	0.03	0.15
マンガンイオン (Mn ²⁺)	<0.1	0.00	0.00
鉄 (2) イオン (Fe ²⁺)	<0.1	0.00	0.00
鉄 (3) イオン (Fe ³⁺)	<0.1	0.00	0.00
亜鉛イオン (Zn ²⁺)	<0.1	0.00	0.00
陽イオン 計	417.7	20.25	100.0

(2) 陰イオン

成分	mg	mval	mval%
フッ素イオン (F ⁻)	2.1	0.11	0.54
塩素イオン (Cl ⁻)	19.8	0.55	2.70
臭素イオン (Br ⁻)	<0.1	0.00	0.00
ヨウ素イオン (I ⁻)	<0.1	0.00	0.00
水酸化物イオン (OH ⁻)	<0.1	0.00	0.00
硫化水素イオン (HS ⁻)	<0.1	0.00	0.00
硫酸イオン (SO ₄ ²⁻)	927.8	19.32	95.22
ヒドロリン酸イオン (HPO ₄ ²⁻)	<0.1	0.00	0.00
メタ亜ヒ酸 (HAsO ₂ ⁻)	<0.1	0.00	0.00
炭酸水素イオン (HCO ₃ ⁻)	18.5	0.30	1.48
チオ硫酸イオン (SO ₃ ²⁻)	<0.1	0.00	0.00
陰イオン 計	968.2	20.29	100.0

(3) 遊離成分

非解離成分	mg	m mol
メタケイ酸 (HSiO ₃ ⁻)	35.4	0.45
メタホウ酸 (HBO ₃ ⁻)	1.3	0.03
非解離成分 計	36.7	0.45

溶存物質 (ガス性のものを除く) 1.423 g/kg

溶存ガス成分	mg	m mol
遊離炭酸 (CO ₂)	35.4	0.11
遊離硫化水素 (HS ₂)	1.3	0.00
溶存ガス成分 計	4.8	0.11

成分総計 1.427 g/kg

4) その他の微量成分

成分	mg
総ヒ素 (T-As)	<0.03
総クロム (T-Cr)	<0.02
総水銀 (T-Hg)	<0.0005
鉛イオン (Pb)	<0.01
水素イオン (H)	<0.01

6. 泉質: カルシウム・ナトリウム-硫酸塩泉 (低張性弱アルカリ性低温泉)

7. 禁忌症、適応症は別表による。

平成11年11月9日
 所在地 石川県金沢市神宮寺2-20-3
 指定分析機関の名称 財団法人 北陸保険衛生研究所
 代表者の氏名 理事長 能村 玄内